



### ご挨拶

平素よりケルヒャー ジャパンをお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

2023年、ケルヒャージャパンは創立35周年を迎えることができました。これもひとえに皆様の長年のご支援、ご愛顧の賜物と心より御礼申し上げます。今年は昨年に引き続き、地政学リスクの高まりや根強いインフレ圧力、カーボンニュートラル実現に向けた動きの加速など、私たちを取り巻く社会情勢が急激に変化した一年となりました。国内に目を向けますと、経済活動正常化の動きが加速し、コロナ以前の消費水準に届く回復がうかがえる一方で、リベンジ消費の一巡と物価高騰による消費者マインドの冷え込みも見られます。

3年に及ぶパンデミックは社会にさまざまな影響を与えましたが、中でも高い衛生意識の形成は、清掃業界において新たな需要や機会を創出する大きなパラダイムシフトとなりました。一方で、清掃業界は人手不足が深刻化の一途を辿っており、業務効率化を含めた課題解決のための技術革新が急速に進んでいます。このような変化の激しい状況下において、企業経営にはかつてないほど敏捷かつ柔軟な対応が求められています。

弊社は今年、業務用の自律走行型床洗浄ロボットを皮切りに、DXやバッテリー製品など、労働力不足や業務効率化の課題に応えるべく製品の改良と拡

充を推し進めました。業務用製品は堅調に推移しており、来年には新たなロボット清掃機の発売も予定しております。家庭用分野においては、ジャパン・プロジェクト製品を多数発売いたしました。日本の住環境に適応する省スペース・静音設計の高圧洗浄機や、日本市場に照準を合わせたケルヒャー初のスティッククリーナーを発売いたしました。2024年には、家庭用インドア製品をケルヒャーのブランドカラーであるイエローからホワイトへ変更し、皆様のニーズに応えていきます。

変動する社会の中、私たちは引き続きお客様に寄り添ったサービスを提供するため、「カスタマーセントリック (お客様中心主義)」を理念に、事業を展開して参ります。また、クリーニングプロジェクトをはじめとする社会貢献活動にも、グローバル基準のパーパス活動として引き続き積極的に取り組んで参ります。ケルヒャー ジャパンは、清掃機器のリーディングカンパニーとして、市場での存在価値を高め、清掃機器専業メーカーならではの技術カやノウハウ、そしてグローバル市場で培った知見を活かし、健やかで豊かな暮らしの実現に貢献していきます。

今後とも、より一層のご指導、ご鞭撻を賜ります 様よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 マーク・ヴァン・インゲルゲム

# ▶ 清掃に従事される方々に感謝をつたえる 「Thank Your Cleaner Day 2023」

「Thank Your Cleaner Day 2023 (TYCD)」は、日頃から衛生環境の維持に貢献いただいている清掃従事者の方々に感謝をつたえる、ケルヒャーがグローバルで実施する社会活動です。ケルヒャージャパンでは、公益社団法人全国ビルメンテナンス協会様で後援のもと、10月18日から31日まで合計26社の企業様に賛同いただき、実施しました。

ケルヒャー ジャパンでは18拠点で 感謝の気持ちをおつたえし、ギフトを 送りました。また、この活動に賛同す る参加企業にTYCDオリジナル缶バッ チやステッカーを配布し、活動の普 及・促進に努めました。



ケルヒャー ジャパン横浜本社



サナクサギ サーブコンバー シェーンプド





特集ページはこちら

## ▶ 「2023年度グッドデザイン賞」 受賞





ケルヒャー ジャパンの清掃機器が、「2023年度グッドデザイン賞」を受賞しました。 2020年度の応募開始より4年連続、計16製品の受賞です。

ケルヒャー史上最軽量の高圧洗浄機「K 1」他と、高圧洗浄・温水除草・除菌の3つの用途で使用できる業務用の温水除草用高圧洗浄機「HDS 1000 DE WEED」と自走式床洗浄機「B 50 W Bp」が受賞しました。「B 50 W Bp」は審査員が選んだお気に入りの受賞デザインを、コメントとともに展示・紹介する企画展「私の選んだー品」に選出されました。



美務用 自走式床洗浄機 B 50 W Bp

賞審査委員セレクション「私が選んだ一品」選出



### 業務用製品

# ▶ 高い品質と安全性で、 作業者の負担軽減に貢献

ケルヒャージャパンは2023年も清掃業界のニーズに応えるさまざまな業務用新製品を発売しました。高圧洗浄機は、高温水を散布して雑草を根から枯らす温水除草専用のエンジン式温水高圧洗浄機「HDS 1000 DE WEED」を発売。床洗浄機は、業界最高レベルの自律性と安全性の床洗浄ロボット「KIRA B 50」や、一度に広範囲の清掃を可能にする自走式床洗浄機「B 50W Bp」が登場しました(2023年度グッドデザイン賞受賞)。また、ケルヒャー史上最小のバッテリー駆動インダストリアルスイーパー「KM 105/180 R Bp Classic」を発売。

新カテゴリーのガーデン製品では、バッテリー式5製品を3月に発売しました。さらに12月~2024年1月にかけて、床面自動検知機能を搭載したコードレスアップライトクリーナー「CV 30/2 Bp」や、人間工学に基づくデザインで作業負担を軽減するコードレス背負式クリーナー「BVL 3/1 Bp」などを順次発売いたします。



B 50 W Bp



### 家庭用製品



# ▶室内でも、屋外でもパワフルに活躍 快適な清掃を実現する5製品

家庭用製品はジャパン・プロジェクト製品を含む、製品がデビューしました。スチームクリーナーのカテゴリーからは 「SC 4 Deluxe」が登場。家庭用最大の吐出圧力と16種類のアクセサリーを付属する最高峰モデルです。

高圧洗浄機は2機種が発売されました。2023年度グッドデザイン賞受賞の「K 1」は、軽量コンパクトで初心者におすすめです。「K 2 Upright」は、移動に便利なホイール付きのデザインに標準装備の2つのノズルで効率よく洗浄ができます。

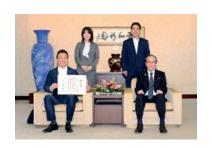
さらに、日本初進出のスティッククリーナーも発売されました。「VCS 3」は、パワフルな吸引力と高いパフォーマンスが好パランスの日本向けモデル。「VC 6」は卓越した吸引力と業界最長クラスの連続運転が可能なグローバルモデルです。

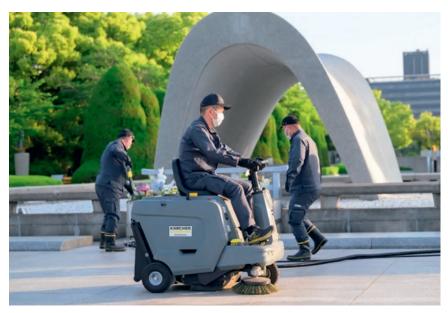


### ▶広島「平和記念公園」内のおもてなし清掃を実施

ケルヒャーグループでは、歴史的建造物の洗浄作業を通して社会貢献を行う「クリーニングプロジェクト」を世界中で実施しています。5月10日、広島支店は市の協力要請のもと、G7広島サミットをひかえた平和記念公園内の舗装清掃と洗浄を行いました。各国首脳をはじめ、G7広島サミットにかかわる皆様を気持ちよくお迎えするためのおもてなし清掃です。

広範囲の清掃にインダストリアルスイーパーと搭乗式バキュームスイーパー、細部にバキュームスイーパーとコードレス背負式クリーナーを使い、効率よく清掃を行いました。10月には、活動が広島市への貢献として評価され、松井一實市長より感謝状が授与されました。











# ▶「埼玉スタジアム2○○2」を 官民連携でボランティア清掃

6月13日、「クリーニングプロジェクト」の一環で、日本最大のサッカー競技場「埼玉スタジアム2〇〇2」の清掃活動を行いました。ケルヒャージャパンと埼玉県、および地元団体・企業様にご参加いただき、官民連携のクリーニングプロジェクトを実施しました。

地域の方の憩いの場であるスタジアム北側広場周辺の舗装を、インダストリアルスイーパーや自走式パキュームスイーパーで効率的に清掃した後、 高圧洗浄機でタイルなどを洗浄。さらに温水除草システムで、環境負荷の 少ない除草作業を行いました。



# ▶世界各地で展開する クリーニングプロジェクト

2023年も世界各地でケルヒャーの「クリーニングプロジェクト」が実施されました。ルクセンブルクのヴィアンデンでは、高圧洗浄機で汚れを落とし絵柄を描き出す「リバース・グラフィティ」による芸術作品が制作されました。幅100m、高さ30mのローミューレのダム壁に、発電所とダムの建設に携わった労働者の表情豊かな肖像画が描かれました。

フィンランドでは、ケルヒャー フィンランド創立 30 周年とケルヒャーの文化的後援の一環として、ケルヒャーチームによるヘルシンキ大聖堂の前庭と周囲の階段清掃が行われました。スイーパーや乾湿両用掃除機でゴミを回収した後、温水高圧洗浄機で石の表面に付着した汚れを洗浄し、日常の汚れや人々がこぼした飲食物の跡などもきれいに取り除きました。





# ▶家電スペシャリストによる欧州最大の家電展示会「IFA」レポート

9月に開催されたドイツ最大規模の家電展示会 [IFA] に出展したケルヒャーのブースを、"家電スペシャリスト" として活躍する滝田勝紀氏が取材しました。

ブースコンセプトは「WOW (ワオ!)のおうちへようこそ」。掃除をしてキレイになると「ワオ!」と驚きと喜びを感じる、そんな魅力に溢れる展示について、 滝田氏は「最新プロダクトがアートを交えてまとめられ、メッセージが圧倒的に 伝わりやすかった」と高く評価いただきました。

ひと足先にお披露目されていたのは、日本未発売の最新プロダクトなどの展示です。日本を含む全ての国で製品ボディの色がケルヒャー・イエローからホワイトに統一される製品に、滝田氏は「室内で使う家電がインテリアになじむ色なのはとても大事なこと。時代のトレンドにマッチしている」とコメントしました。また創業者アルフレッド・ケルヒャーの直筆サインを刻印したハイエンドモデル「シグネチャーライン」にも強い関心を持たれました。次に滝田氏を驚かせたのが、AI技術を搭載した最新ロボットクリーナーです。「清掃機器としてのレベルの高さ、信頼度は間違いなくトップクラス」と滝田氏。ケルヒャー製品に共通で使用できる非常にコンパクトなリチウム電池、ドイツを代表するデザイン賞を受賞したアップライト式フロアクリーナー「FC 7」も高く評価いただきました。さらに今回の展示では、SDGsを重視したサステナブルな取り組みも強く打ち出されていました。持続可能で清潔な日常生活を送るためのものづくりのメッセージが、多くの来場者に届いたと感じたIFAの取材でした。















# ▶業務用ディーラーコンテスト 入賞企業様ドイツ研修旅行へ

現地10月16日から20日、ドイツ本社招待コンテストでベストパートナー賞を受賞された9社21名にご参加いただき、ドイツ研修旅行が開催されました。

初日は、ケルヒャー本社を訪問。エントランスでは、日本の国旗が掲げられており、セールスのトップ CSO のクリスチャン・マイ氏直々のお出迎えを受けました。その後、本社見学とブレゼンテーションが行われました。

翌日は、工場見学で生産体制やオートメーションなどに

ついて勉強。後半は、観光でメルセデス・ベンツ博物館、ハイデルベルグ等を訪れました。参加企業様からは、「ケルヒャーの歴史から現在の開発現場まで細かく見学ができ、大変参考になった」「熱意に満ちたレクチャーは大変心に残った。会社と社員の皆さんが良い製品をつくり出そう、もっと良い製品にしていこうという気持ちが良くわかった」など、今回のツアーが参加者とケルヒャー、お互いにとって素晴らしい機会になったことを物語っています。







世の中には、「無い時に初めてその大切さがわかる」ことがあります。エルゴノミクスがまさにそうです。ものを使う人が、使っていて腰が痛くなったり、けがをした時に、エルゴノミクスがあれば良かったと気づかされます。しかし、エルゴノミクスー人間工学に基づいて設計された製品には、どれほどの努力がなされているか理解している人は意外と多くありません。

#### エルゴノミクスの起源

「エルゴノミクス/人間工学」という言葉は、1857年にヴォイチェフ・ヤストチェンボフスキによって生まれました。彼は最小限の労力で労働する科学的な概念を生み出しました。そして約100年後、W.E.ウッドソンはこの概念を発展させ、最小の負担で最大の効率を達成する製品を設計します。2011年には、「DIN EN ISO26800」が人間工学的な取り扱いに関するすべての原則をまとめた最初の規格となりました。

### 優れた人間工学専門家とは?

ケルヒャーの人間工学の専門部門担当者と話すと、彼らの「ユーザーの生活を快適にする」使命への熱意が伝わってきます。インダストリアル・デザイン・プロフェッショナルのディレクター、デニス・ダムケラーはこう説明します。「誰かが「これは本当に使いやすい」と思ってくれたら、それは私たちが

仕事を成功させた証です。」また、家庭用製品デザイン・ディレクターのミヒャエル・マイヤーは「もし製品の使い方が簡単で楽しいと感じてもらえれば、私たちは新たなケルヒャーのブランドアンバサダーを増やしたことになります」と述べています。

#### 3つの人間工学的手法

私たち(or ケルヒャー)にとって重要なことは、ユーザーのニーズを理解し、その知識を製品に反映させることです。そのためには様々な配慮が必要です。組織的人間工学では、手の動きや移動距離を最小限にすることに重点が置かれます。物理的人間工学では、身体への負担や適切な位置のハンドルなどに注目します。認知人間工学では、分かりやすいアイコンや標準化された操作メニュー、認識しやすいサウンドなどを通じて、ユーザーが製品の使い方にすぐに慣れるように設計します。



### 日々の苦労を体験する

デニス・ダムケラーのチームは、実際の清掃現場で製品を使用する業務用ユーザーの仕事ぶりを自ら確認しています。業務中のユーザーを観察し、耳を傾け、話をすることが非常に重要です。ノート、カメラ、そして注意深いマインドが、この仕事にとって最も重要なツールです。どんな人がどんなアプリケーションに関与しているかを推測し、製品の使用サイクル、すなわちユーザー・ジャーニーを生み出す要素を特定しています。これは製品設計の基本であり、常に様々な角度で検証します。最終的に、アイデア、コンセプト、モックアップが生まれ、社内と顧客双方での綿密な最終テストを経て、量産に入ります。

### ユーザー、強度、機能のために

「家庭用製品を開発する場合、業務用製品とは異なる使用シーンを想定しますが、どのような市場であれ、真に人間工学に基づいたデザインを実現するために、常に細部まで配慮

しています」とミヒャエル・マイヤーは説明します。例えば、家庭で不定期に使用される高圧洗浄機では、トリガーガンのハンドルや操作位置などに重点を置いています。対照的に、毎日使う掃除機では、人間工学が製品全体の設計の基本になります。

重要なのは誰が装置や機械を使うのか、ということです。 男性か女性か、背が高くて手が大きい人か、小柄で手が小さい人なのか、それは地域によって異なります。地域の習慣も製品デザインに影響を与えます。整理整頓を重視する日本では、アクセサリーを収納できることが決め手になります。また、ユーザーが機械を操作するために加える力も重要です。重さが7キロを超える製品は、持ち運びが困難になるため一般的に車輪とトロリーハンドルが付けられています。「設計コストを合理的な範囲に抑えるため、私たちは現在、設計の構成要素となる人間工学モジュールを用意しています」とマイヤーは説明しています。



これからの床清掃は KIRA におまかせください

自律型床洗浄ロボット KIRA B 50

業界最高レベルの自律性と安全性を実現したケルヒャーの次世代型床洗浄ロボット KIRA B 50 床清掃の自動化により人手不足と業務効率化の社会課題を解決します

